

第25期第3回理事会議事録

日時：平成元年5月24日（水） 18:00～20:30

場所：観測部会議室

出席者：理事：浅井，岡村，荒川，松野，竹内，河村，
村上，木田，安田，能登，中村，古賀，村松，
菊地，廣田，瓜生，佐橋，石島

監事：関口，浜田

オブザーバー：駒林，赤城

理事長挨拶：

春季大会運営に当たる観測部のご尽力に感謝の言葉
があり議事に入った。

議事

A. 報告事項

1. 第25期第7回常任理事会議事録は案どおり承認された。
2. 各委員会報告

「庶務」

資料が提出された。主なものは次のとおり。

- ア. 元田理事死亡に伴う理事の変更登記を行った
- イ. 学術用語集（気象学編）の出版契約の更新を行った。

申請者 日本学術振興会

更新期間 平成元年6月16日から3年間

「会計」

4月の収支報告があった。（今回から新様式とした。）

平成元年度の予算案について説明があった。

- ア. 基本的に前年度の実績に基づく。
- イ. 会費前受金をはっきり判るようにした。
- ウ. 消費税を考慮してある。

「国際学術交流」

岡村担当理事から昭和63年度は大口の寄付があり、目標の2,000万円達成の見込みがあった。今後学会外の団体からの募金はやめることが認められた。「天気」に報告する。

「1990AGU」

理事長から次の報告があった。

- ア. 会議の時期と場所 1990年8月21—25日，金沢
- イ. プログラム委員に木村竜治会員（東京大学海洋研究所）を推薦した。

ウ. 論文の締切は1990年2～3月頃の見込み。

エ. 副議長は木村磐根氏（京都大学），本蔵義守氏（東京工大）となる予定。

オ. 気象学会は応分の分担金を出す。

カ. 概要を近く「天気」に掲載する。

「昭和63年度会計監査」

関口監事から総会議案の監査報告書に基づいて説明があった。

「1993—IAMAP」

IAMAP—93 作業委員会の検討状況の報告があった。

IAHS が1993年に日本で総会を開くことになった。との情報があり，IAMAPはIAHSとの共同開催になることがほぼ確実となった。今後学会への広報活動を行っていく。

B. 審議事項

1. 会員の新規加入

新規加入 17名，退会 2名が承認された。

2. 平成元年度事業計画案および予算案について

中村，能登担当理事から総会議案について説明があり審議が行われた。廣田理事から事業計画案の電子掲示板に関して，利用予測について説明が求められ，村上理事からつぎの説明があった。

— 第一の目的は気象集誌への投稿をパソコン通信で行うことである。現在フロッピーディスクによるものが約半数を占めており，利用は拡大するものと予想される。その他に，学会の最新情報を早く伝え，また会員相互の情報交換を行うために電子掲示板を設ける。パイロットステディとして一年ほど利用状況を調査する。

機器は気象集誌の印刷をしているUAPに置き，運営を委託する。農業気象学会は3年以上の実績がある。 —

説明が了解され案どおり承認された。

3. 「山本・正野論文賞」の設立について

木田理事から総会議案「山本・正野論文賞」の新設とそれに伴う山本賞の発展的解消の提案について説明され承認された。

付帯事項—松野理事からの提案で「山本・正野論文賞」設立の際の常任理事会における了

解事項を全理事が確認し、覚書として残すことになった。—

- 4. 定款の細則「各賞受賞者選定規定」の改正
中村庶務担当理事から総会議案について提案の主旨説明があり議案どおり承認された。

議論一受賞者は「学会員とする」として理事の承認を得ていたが総会議案では再び削除することに变更したことについて議論された。総会議案は訂正しないことになり、各賞受賞者と学会員であることの関係について中村理事が整理し、覚書として全理事の承認を得ることになった。—

- 5. ICSU/WMO JSCU FOR WCRP 開催の後援について
松野理事から1990年3月5—10日に東京で開催される標記の会議の後援名義について承諾が求められ承認された。
- 6. 平成2年度以降の気象学会大会の開催について
 - ア. 平成2年度の開催はこれまでの順番に従い、春は東京管区気象台、秋は関西支部が担当する案が承認された。
 - イ. 3年度以降について、開催地順番の見直し案（会員数の変遷等による）が提案され審議の結果つぎの通り決まった（表参照）。
- 7. 韓国気象学会の会長を秋季大会に招待することについて

春季大会	秋季大会
・東京管区気象台	・関西支部
・東京大学	・中部支部
・筑波地区	・北海道支部
・気象庁予報部	・東北支部
・気象庁観測部と気象大学校が交代で担当	・九州支部

韓国の気象学会春季大会に理事長が招待され出席したことに関連して、沖縄の秋季大会に韓国気象学会の会長を招待することが理事長から提案され審議された。韓国としては日本気象学会との強い交流を希望しており日本気象学会にも会員が多数入会していることもあり国際交流事業の一環として意義深いこととして承認された。

沖縄大会の実行委員会は実質的には6月から活動を開始するので、韓国気象学会会長の講演スケジュールなどを検討することになった。

C. その他

- 1. 地球物理学に関連する、諸学会の春季大会を同時に同じ場所で開催することについて、地震学会、地球電磁気学会等から文書により意向打診があったとの説明が理事長よりあった。
次期常任理事会の議題とすることとした。

編集後記：6月末の天気編集委員会では、定常の議題に加えて、今後の「解説」のテーマについて検討が行われました。この際、「天気」の内容のより一層の充実と親しみを持てる紙面作りのために、昨年10月から今年3月まで実施した「天気」のアンケート結果(中間集計)をもとにしました。会員の掲載希望テーマは、ポピュラーなも

のから深い専門分野まで多岐にわたっており（中には執筆者を指名したものも入っていました）、非常に参考となりました。これから、各分野の専門の方々へ解説の執筆をお願いするなどの作業が続きますので、「解説」を担当される方もよろしくお願ひします。多くの会員に満足のゆく「解説」が届けられればと思っています。（曜）